

特集

志木っ子の未来を育む



ミチ MICHI音楽学院

内 容／ボーカル、ギター、ベース、ドラム、ピアノの完全個人レッスン（各ジュニアコースあり）、リトミック（幼児教育1歳から）

※詳細は、お問い合わせください。

住 所／柏町5-17-7

連絡先／☎048(487)3109

✉ michion@jcom.home.ne.jp

🌐 <http://michion.net/>

受 付／平日：10時～21時 土曜日：9時～21時

※レッスンなどで、電話がつかない場合があります。留守番電話に入れていただければ、折り返し連絡させていただきます。

市内には、野球やサッカー、水泳、ダンスなどのスポーツや音楽、書道、料理、陶芸など、さまざまな習い事やカルチャースクールがあり、志木っ子をはじめ、趣味として楽しむ人からプロを目指す人まで、多くの皆さんが通っています。

今年3月、s i k i s i i というアーティストが、音楽アルバム「from k a s i w a」を発表しました。s i k i s i i のメンバーは、柏町にあるMICHI音楽学院の出身で、学び舎のある志木市柏町をアーティスト名やアルバム名にしたそうです。

そこで、今月の特集では、さまざまな習い事やカルチャースクールの中から、s i k i s i i を輩出したMICHI音楽学院にスポットを当ててご紹介します。

問合せ／市政情報課 内線2009

MICHI音楽学院出身 アーティスト

キートーク KEYTALK

おの たけまさ
小野 武正さん(写真右)・コメント

やぎ ゆうき
八木 優樹さん(写真左)



僕が今、プロのミュージシャンとして活動するための土台は高校一年生の時に出会ったMICHI音楽学院で作られたものが非常に大きいです。

ギター講師の金子先生には音楽理論の基礎中の基礎から教えていただき、その後の音楽人生においてしっかり分析する術を。そして、学院長の小野先生には音楽という一つのカテゴリーに留まらない広い視野での芸術と人生観について深く教えていただきました。

MICHI音楽学院という名のとおり、まさに音楽の「道」、そして人生の「道」に正解なんてなくて、いろいろな選択肢があるのだということ、実際に体感させていただいたことに深く感謝しています。

シキシ sikisi

MICHI音楽学院で学んだことを音楽で表現するため2017年に結成。sikisiという名前は、学び舎のある志木市に由来します。

「from kasiwa」の収録曲「Gum」のミュージックビデオ [https://youtu.be/DVRegQGK2O4] は、解体前の旧市庁舎で撮影されました。

「from kasiwa」のジャケットの写真は、生徒の泰一くんが撮影しました。



そのほかにも、映画「スレイブメン」の主題歌を歌ったBRATS (黒宮れい、あや)、SUKEROQUE、ドラマーの守真人さんなど、多彩なアーティストや音大特待生などの志木っ子を数多く輩出しています。

生徒の気持ちに 全力で応えたい

「音楽を通じて、人生の良き道しるべでありたい」との思いから、生まれも育ちも生粋の志木っ子の小野浩一学院長が設立したMICHI音楽学院。プロのドラマーとして活動していた大野さんが、手づくりでスタジオを建てるところからはじまり、今年で21年目を迎えます。

前進をし続ける大野さんは、学院の設立に満足することなく、一人でも多くの子どもたちが夢を見つけ、叶えられる環境となるよう、学院設立後も幼児教育を一から専門に学び、学院独自のジュニアコースを確立しました。

また、プロの現場で活躍する講師陣も学院の自慢の一つ。プロを目標に掲げる生徒には、プロにな

▶加藤先生と生徒の志木っ子
泰一くん(小学3年生)



ドラム講師の加藤聡先生は、Little Glee Monsterやhitomi、鈴木愛理などのドラムを担当する、第一線で活躍するプロフェッショナルです。

するためのレッスンを、趣味として楽しみたい生徒には、より楽しめるようになるためのレッスンをやるなど、第一線のプロが講師を務めるからこそ、一人ひとりの気持ちに伝えられるレッスンが実現します。質の高いレッスンを受けられると口コミで評判が広まり、県外からも生徒が通います。

第2章の開幕に向け

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るう現在、飛沫飛散防止フィルムの設置や消毒、換気、マスク着用の徹底などの対策に取り組む一方、大野さんは、これからの学院や自身の在り方を見つめ直す日々を過ごしています。

生徒たちとの「雑談」を大切にしてきた大野さん。雑談を通して、音楽だけではなく、物事の考え方や新しい見方などを伝え、時には、生徒の本音を聞く機会でもありました。雑談が学院の「肝」であり、雑談こそが、生徒がプロで活躍することや音楽以外の新たな夢を見出すことにもつながっていると云います。

しかし、コロナ禍においては、これまでのようにみんなで集まり、和気あいあいと雑談することは難

しい状況です。それでも大野さんは、音楽を学びたい人の気持ちに伝え続けられるよう、悩みながらも、新しい方法を模索していきたくらいと、「MICHI音楽学院 第2章」に向けての秘めた思いを聞かせてくれました。



▲雑談に花を咲かせるsikisiの鈴木さん(左)と大野学院長(右) (今月号の表紙を飾ってもらいました)